

会議録

○事務局 教育委員会教育部放課後対策課 電話：03(3981)1058

附属機関又は 会議体の名称	令和3年度 子どもスキップ運営協議会
事務局（担当課）	教育委員会教育部放課後対策課
開催日時	令和3年4月23日（金）午前9時30分～11時
開催場所	区役所本庁舎1階 センタースクエア
議題	<p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>（1）令和2年度子どもスキップの事業報告</p> <p>（2）令和3年度子どもスキップの事業計画</p> <p>（3）各委員による意見交換</p> <p>（4）その他</p> <p>3 閉会</p>
出席者	<p>委員</p> <p>白熊千鶴子（豊島区青少年育成委員会連合会 会長代行）</p> <p>根岸幸子（豊島区青少年育成委員会連合会 第6地区常任幹事）</p> <p>豊島佳代子（豊島区青少年育成委員会連合会 第2地区幹事）</p> <p>三原真理子（豊島区青少年育成委員会連合会 第8地区幹事）</p> <p>滝上俊恵（長崎小学校校長）</p> <p>岡将太（小学校PTA連合会会長）</p> <p>藤井芳子（駒込放課後子ども教室地域コーディネーター）</p> <p>西野幸江（池袋本町小学校学校開放運営委員会委員長）</p> <p>金子智雄（教育長）</p> <p>澤田健（子ども家庭部長）欠席</p> <p>兒玉辰哉（教育委員会事務局教育部長）</p> <p>小澤さおり（子ども家庭部子ども若者課長）</p> <p>小野義夫（教育委員会事務局放課後対策課長）</p>
	<p>事務局</p> <p>塩田八千代（子どもスキップ仰高所長）</p> <p>河村涼子（子どもスキップ池袋本町所長）</p> <p>森田春美（子どもスキップ千早所長）</p> <p>桑原由貴子（放課後対策課児童支援係長）</p> <p>安部純実（放課後対策課係員）</p> <p>小林弥生（放課後対策課係員）</p> <p>山崎美代香（放課後対策課係員）</p>

1 開会

小野 義夫放課後対策課長から開会の挨拶

2 教育長挨拶

3 議題

(1)令和2年度子どもスキップの事業報告

小野 義夫放課後対策課長より資料①②について説明

(2)令和3年度子どもスキップの事業計画

小野 義夫放課後対策課長より資料③④について説明

(3)各委員による意見交換

以下経過

○A 委員

昨年度は様々な活動が自粛になり、運営協議会も書面開催となったが、直接会って対話することで解決することもあるということを感じた。しかし、所長をはじめ、スタッフの方々が一生懸命取り組んでいることが伝わった。御礼を申し上げたい。見守りなどを通して、力になってあげることができなかった。スキップには子どもが多くいて、各家庭での考え方などの違いもあるなかで、感染症対策で苦勞したことや工夫したことなどをお伺いしたい。

○A スキップ所長

感染情報について、正しい情報ではなく、噂が回ることが多々あった。その都度学校で指導していただき連携をとっていたが、誰が発症したのかということ以案じている方は多くいたと感じる。また、マスク着用の徹底を心掛けたが、定着するまでに時間がかかった。学校と協力し、マスクを外していいとき、つけなければならないときについて共有した。その日の天気を見ながら活動場所を考えるなど、密の回避にはどこの施設でも苦勞していると思う。

○B スキップ所長

保護者の不安はもちろん、子どもが非常にストレスを抱えていることを感じた。マスクの着用、手洗い・うがいの徹底など、様々な制限があるなかでの運営に苦勞した。最初はできないことばかりで職員も思い悩むことがあったが、徐々に「これならできる」「これなら密を回避できる」など、今までできたことの中から発想を転換してやっていこうという意識に変わったことがよかったと思う。

○OC スキップ所長

所長会などでも、感染情報について大事になるのを未然に防ぐようにという話があった。職員のなかでそのような話を見聞きしたらすぐに共有し、子どもたちにしっかり話して対応したため、正しくない情報を広めることなく過ごせたのがよかった。また、休校により子どもたちの体力が落ちていて、再開時に想定していたよりケガが多かった。冬場の手洗いは、お湯がでるところがほとんどないため、あかぎれになっている子どももいて、今後の対策が必要だと感じた。

○放課後対策課 児童支援グループ係長

教育部各課と連携し、素早く正確な情報を現場に流し、対応をとっていただくのに苦勞した。休校時には、応急利用としてエッセンシャルワーカーの児童の受け入れをした。また、学童指導補助は地域の高齢の方も多く、感染を心配してやめてしまう方もいて、人手が足りない施設が多くあった。庁内への応援の呼び掛けや区民ひろばから職員派遣など、全庁から職員に応援を頼んで対応し、8時15分～19時のローテーションを組むのに苦勞した。また、感染拡大防止により一般利用を休止しているため、学童クラブの利用条件を緩和し、入会希望者の受け入れを行った。そのほか、自粛要請中の利用料の免除など、普段はない事務処理に追われた。国からコロナ対策として補助金が給付され、空気清浄機など確保が困難だった衛生用品などを購入し、現場で活用できるようにした。

○OB 委員

昨年度は大変ご苦勞されたと思う。ありがとうございます。第2地区育成委員会も昨年度改選だったが、全員で会う機会がなく、場所を借りられず、運営委員会を開催することも大変な状況だった。スキップとも関りがなく、学校にもお邪魔できない状況だったので、1年間学校や子どもたちのことが見えなかった。育成委員会でも今までも活動の形を変えるなど、どのようにしたらできるかを考えながら、できる範囲でこれからもスキップの方たちと活動していきたい。

○OC 委員

資料①について、職員が罹患したときの濃厚接触者について伺いたい。

○放課後対策課長

一般的には、感染者がでると保健所が聞き取り調査をする。昼食などの飲食時の状況や、マスクをはずしていないか、会話していないかなど、本人と施設長への状況確認があった。その調査の結果により濃厚接触者が認定される。スキップ内での感染はない。

○OC 委員

宅配弁当は保護者から高評価だったようだが、利用率はどのくらいか。また、カレーが提供された日があったようだが、それについて伺いたい。

○放課後対策課長

各スキップで夏は平均 10 食程度利用があった。保護者の評判はよく、「また利用したい」が 84%だった。しかし、元々子ども向けではなく、高齢者向けに作られたお弁当であるため、見た目が少し地味であり、若干残す子もいたようだ。当初の目的である、保護者の弁当作りの負担を軽減するという点では満足していただけたのではないか。また値段については、本来 630 円のを値段交渉しているが、500 円が妥当かどうかという点は、これから検討していきたい。長期休みは子ども向けのメニューにしてほしいという交渉をしているところである。

○教育長

休校により給食用の食材が余ってしまい、肉は捨てるしかなかった。それを無駄にしないため、給食の調理師の方々にお願いし、学童の子どもに 2 回カレーを作ってもらった。通常の給食制度とは違うので、現場でお金を集めて対応した。いつも給食とは食数も違うため作り方が違ったかもしれないが、子どもは辛いと言いながら、たくさん食べていた。通常では難しいことだが、緊急対応ということで全校の栄養士に説明し、ご協力いただいた。

また、宅配弁当はご飯が少し冷たいので、冬場の電子レンジ活用など課題はある。ワタミは、ほぼ無料の宅配弁当を江戸川区で試行していたこともあり、評判が良かったので、豊島区でもどうかという話がきた。子どもたちに喜ばれる弁当にしたいとすごく真面目に考えてくれている。

○OC 委員

このような取組みにより、保護者の方に恵まれているということが感じ取ってもらえたらと思う。

資料①高松小学校の改修について、和室はなくなるのか。

○放課後対策課長

和室の部分は改修によりスキップのエリアになるため、和室としてはなくなる。

○委員長

カレーの会に参加させてもらった。コロナ禍で仕方がないが、子どもたちは一列で黙々と食べていて、ただ食べるだけなのが、かわいそうだった。

OD 委員

長い休校後、分散登校を経て学校を再開したが、新しい生活様式にもだいぶ順応してきてソーシャルディスタンスを取りながら、学校生活を送っている。経験したことない生活が始まったことにより、不安を抱えている子どもが多くいたので、心のケアが必要だった。長期休校後は、しっかり子どもの様子を確認し、アンケートをとったり、必要に応じて面談をしたりなど、まずは安心して過ごせる学校づくりをどこの学校でも取り組んでいたと思う。今は子どもたちも慣れてきて、校庭開放・学童もあるため、子どもたちがいきいき過ごしている姿を見て嬉しく感じている。

一般利用については、いつ再開されるのかという問い合わせが多く、保護者のニーズとしては早く利用したいという声が上がっている。スキップと連携しながら、子どもたちが学校・スキップ・地域で安心して過ごせるように、力を尽くしていきたい。

OE 委員

池袋本町の子ども教室を担当しているが、池袋本町は人数が多いため、子どもたちがひしめき合っている。校庭で遊ぶ際は、職員の方も多くいるので安心して見ていられるが、子どもが多いため、けがが多いという話を聞いている。新一年生が多いので大変そう。雨の日など密になりそうなときは、小学校のホールなどに連れて行って遊ばせているらしい。先生たちも工夫しているようだが、人数が多いと密の回避が難しいと感じる。校庭は広いので、子どもたちを自由に遊ばせて、けががないように見守っている。

OF 委員

学校給食の材料を活用したカレーは、私も食べたがおいしかった。給食用に食材を下ろしている商店街の方から、大きな金額の損失があり大変だという話を聞いていたので、とてもよい施策だと感じた。

タブレットについて、まちなかで保護者の方から、「タブレットはありがたいがゲームから離れられなくなって、外に出なくなるらしい」という話を聞いた。5GBの制限はあるが、Wi-Fiに繋げて使ってしまうのではないかと思う方もいるようだ。保護者の方がタブレットやゲームに対して、「これでいいのか」「渡されなければ使わないのに」という不安があるのではないかと感じる。学校側から見ると、子どもたちが自主的に調べ学習をできるなど、メリットは多くあると思う。課題は、善し悪しの采配が家庭に強く任せられている部分ではないだろうか。コロナ禍で大変な家庭も多くあると思うので、家庭だけに任せるのではなく、フォローする体制が必要ではないだろうか。

また、けがが多いという話を聞いて、校庭開放の際も、自由遊びをする前に校庭を2周するなどの準備体操をしている。私は豊島区のほかに埼玉県でも運動指導をしており、延べ500人ほどの子どもを見ているが、たしかに体力の低下はあると思う。基礎体力を作るのは、ランニングや筋トレが望ましいと言われているが、けがを防ぐために

は、反応する力を上げることが必要だと思う。例えば、鉄棒から跳び箱に変わるなど単元が変わるときに、反応できずに突き指してしまうことがあるが、上下運動や縄跳びなどの単純な動きで、反応する力を強化することはできると思う。壁に手形をつけて、3回ジャンプするなど、場所の確保が十分にできなくても、ちょっとした工夫や動かす機会を与えることで、けがを防ぐことができるのではないか。

○教育部長

タブレットについては基本的なルールを定めている。自動的に午後 9 時以降は使用不可となり、フィルタリングにより調べ学習には対応しているが、ゲームや YouTube などには使えないようになってきている。ただ、規制をかけすぎると使わなくなってしまうので、ルールを守りながら積極的に使ってほしいと考えている。初めのうちはゲームをやりすぎてしまうのではないかという懸念もあったが、今は使い方もだんだん良くなってきている。

○OD 委員

教員よりも操作スキルがあり、得意な子もいる。学校内での基本的なルールを定めているが、なかなか守ることができない子や、保護者からお家でのルールを守れなくて困っているという声があれば、個別に面談などを行い、学校でできることは対応している。

○委員長

地域のなかでタブレットについて不安な声を耳にしたときは、きちんとした使用のルールを定めているということを伝えてほしい。

○OG 委員

学童クラブを緊急事態宣言後も開けてくれたことは、保護者としてとてもありがたかった。子どもを見るために仕事を休むしかないと思っていたので、みんなありがたいと思っていると思う。タブレットについては様々な情報を PTA でも話しているが、第一義的には、家庭が見るべきだと思う。子どもがタブレットを使用していたら、保護者が何に使っているか確認し、どんなサイトが見られるかなど把握すべき。高学年はルールが必要かもしれないが、正しく使用している子にも制限がかかってしまう。子どもたちも自主的に使用できることで、プラスになると思う。

放課後子ども教室は、地域の方と子どもたちが交流できる場所として非常にいいものだと思う。地域の方と顔見知りになることで、子どもたちも安心でき、何かあったときに言いやすいと思うので、ぜひ精力的にやっていただきたい。しかし講師の中には高齢な方もいるので、タブレットの使用が難しい方もいるのではないだろうか。コロナ禍で放課後子ども教室を再開するには、タブレットを使うのが一番現実的で良いと思うの

で、資料の充実やサポートしてくれる方がいるとよいのではないか。

○放課後対策課長

本来は対面の再開が一番いいが感染の状況によっては難しいため、一人1台のタブレットをどう活用するかが課題である。放課後対策課でも、子どもが持っているものと同じタブレットを補正予算で購入し、使用方法を把握する予定。また、講師の方をサポートする社会教育指導員を配置しており、若い職員が多い。スキップまつりのオンライン開催や、放課後子ども教室の動画配信などを行っている。子ども教室の双方向の活動についても、社会教育指導員を中心にマニュアルの作成などを行い、講師の方に寄り添いながら講座を作っていくたい。

○委員長

学校・スキップでの指導のおかげで、マスク着用が徹底されていてよかった。各スキップは密な状態ではあると思うが、校庭に連れて行くなど、密を回避するために、それぞれのやり方で工夫されていると思う。

○子ども若者課長

ジャンプは現在開館しているが、緊急事態宣言中は休館していた。家庭に居づらい子どももいて、事前予約すれば来館可能な体制をとっていた。今後もジャンプとスキップで連携しながら、子どもの見守りを続けていきたい。

○教育部長

手洗い・喚起・マスクの着用の徹底で、これまで子ども同士の感染はない。濃厚接触者も1件のみ。インフルエンザの発症は小・中学校で1件ずつしかない。施設によっては3密状態の場合もあるが、上記の徹底により現場での感染を防いでいるので、安心してほしい。